

# 学校説明会 事項書

令和8年2月7日 学習発表会終了後  
於：勢和小学校 体育館

## 1.開会

5

## 2.校長挨拶

## 10 3.提案事項

1)主な学校経営方針について振り返り 資料①

2)来年度に向けた重点取組について

15 ①現3年生の2クラス運営に向けた要望 ※現5年生はR8も2クラス運営

②算数科「わかる授業（習熟度別授業）」の継続

③

20 3)年間行事予定 資料②

①学級懇談会開催

4月27日（月）6限目 ※授業参観は5限目

※中学校と同一日に授業参観を実施していたが、来年度は別日に

②遠足

25 実施期日：4月17日（金）

目 的：なかよし班での交流、1年生の歓迎

目的地：ゆとりの丘（または、古江キャンプ場、立梅用水散策など3月に新6年生で相談・決定）

③運動会

実施期日：5月23日（土） 14:00頃下校

30 種目内容：徒競走、全学年家族競技、高学年リレー、表現種目

④来年度も月曜日を全校5限にするモジュール授業の実施

水曜日は今年度の40分授業から45分授業に戻し、下校時刻が2時半頃になる。

#### 4)学習指導

- ①学年相当の家庭学習時間になるよう、宿題の量を見直すとともに、家庭読書習慣の定着を図るため、読書を宿題に課す。

5

#### 5)生活指導

- ①体育の服装の緩やかな統一

日常の体育科授業でも運動会に準じた服装で

#### 10 6)その他

- ①配布物のデジタル化

紙とデジタルを使い分ける。

紙・・・卒業式開催通知など重要性・公式性が高いもの、同意書など提出・確認が必要なものなど

デジタル・・・たよりなど情報提供が主目的なもの

15

#### 4.質疑応答

#### 20 5.閉会

25

30

2026.2.7

## 1. 学校教育目標

5 明日も行きたくなる勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように、やって、考え、工夫しよう～

## 2. 学校経営計画

### (1)「確かな学力、豊かな心、健やかな身体」の育成

#### ①確かな学力を身につけ、自らが学ぼうとする子どもの育成

10 ○子どもの「わからなさ」を出発点としたペア・グループ学習、ICT を活用した活動、ユニバーサルデザイン  
の教科授業等、様々な授業形態や教材開発の試みを積極的に行う。

○子どもの満足感と自己肯定感を高める学習活動を展開する。

○学習規律の定着を図る。

○多気町学力向上アクションプログラムに基づき、学力向上に努める。

15 ○「導入カフェ」などのOJTを進め、継続的な授業改善を進める。

○少人数授業を活用して、個に応じたきめ細かい指導を行う

○読解力、語彙力の向上のため、子どもの読書活動を推進する。

#### 学校満足度調査 質問内容

##### (1)保護者対象

20 ・勢和小学校の指導で、子ども達の学力が伸びている。

・お子さんは自身のことが好きである。(お子さんの自己肯定感が高い)

・お子さんは読書が好きである。

25 ・ご家庭では、お子さんが読書する時間を作っている。

・お子さんは、学習や学校行事に前向きに取り組んでいる。

・お子さんは学年に応じた時間(低 20 ～ 30 分、中 30 分～ 40 分、高 50 分～ 60 分)の家庭学習をしている。

##### (2)児童対象

30 ・じゅぎょうは、よくわかる。

・じゅぎょう中、勉強がわからないとき、友だちや先生に、きいている。

・自分のことがすきだ。(自分にはよいところがある。)

・読書(どくしょ)がすきだ。

35 「子どもの心に火を付ける授業」づくりを進めるとともに、「振り返り」の要素を明確にすることができた。導入カフェを交流カフェと名称変更し、授業全体に関わった交流を計画どおり実施できた。

児童対象学校アンケートでは「自分のことが好きだ」と回答した児童が76%と80%を切ったが、QU満足群では77%と全国平均を2倍近く上回った。家庭では児童の30%が家庭読書時間平日30分以内であったことから、宿題に読書を位置づけ、活字に接する機会を確保することにした。

## ②人権を尊重する心豊かな子どもの育成

○いじめ防止基本方針により、いじめを許さず弱い立場の子どもの学校全体で支えていくための共通理解と仲間づくりを進める。QUやいじめアンケートを活用し、学級や学校の課題を明らかにするとともに且頃の子どもの観察により、困り感のある子どもがいつでも相談できる体制を整える。

- 5 ○道徳科」を中心として道徳教育の充実を図るとともに、小中連携カリキュラムの実践や人権フォーラムの取組を通じて小中が連携する。

### 学校満足度調査 質問内容

#### (1) 保護者対象

- 10 ・勢和小学校の指導で、子ども達の生活意識や規律、マナーが高まっていると思う。  
・ご家庭では、お子さんの就寝時刻を話し合っている。

#### (2) 児童対象

- 15 ・人にいやなことをいったり、したりしないように気をつけている。  
・人からいやなことをいったり、されたりしたことがある。  
・こまったときには、先生やかぞくにそうだんしている。

児童対象学校アンケート「人からいやなことを言われたり、されたりしたことがある。」では33%の児童が「ある」と回答。保護者対象アンケート「勢和小学校の指導で、子ども達の生活意識や規律、マナーが高まっていると思う。」では、88%だった。4年生では言葉遣いに焦点を当て「ふわふわ言葉の木」に取り組んだ。

## ③心身とも健やかな子どもの育成

○学校保健委員会を中心に、医師・保護者・教職員が連携し心身の健康のための環境づくりを行う。

- 25 ○保小中で連携して「ファミリーウィーク」の取り組みを進め、保護者と連携しながら、子どもがメディアと適切な関わり方ができる力を培う。

○食育を通じて給食の安全な実施に努めるとともに、食生活の大切さについて気付かせていく。

○学校保健安全計画に基づき、自他の命を大切に健やかでたくましい心と身体づくりに取り組む。

### 学校満足度調査 質問内容

#### (1) 保護者対象

- 30 ・お子さんは、毎日元気に学校で楽しく過ごしている。

35 保護者対象アンケート「お子さんは、毎日元気に学校で楽しく過ごしている。」では肯定的回答率が100%だった。メディアとの適切な関わり方では、ファミリーウィークの結果ではメディアに接する時間を120分以下に設定した児童の場合、達成率は22%であった。120分～180分、180分以上に目標を設定した児童の達成率は10%であり、長時間メディアに接している児童ほどメディアから離れにくいことが分かった。

## (2) 他者と協働して豊かな未来を創造する力の育成

### ① よりよい学校生活を送ろうとする子どもの育成

○仲間と協力・協働する企画を確保し、子どもたちの人間関係形成力、社会形成能力を向上させる。

○課題発見課題解決能力を高めるとともに、よりよい学校生活を送ろうとする子どもの自治意識を高める。

○勢和の美しい自然を守ることを意識した持続可能な活動を進める。

○OCIRを活用し外国語教育を推進すると共に国際理解教育の充実を図る。

○情報スキル、モラル、リテラシーを定着させ、情報活用能力の向上を図る。

#### 学校満足度調査 質問内容

##### (1) 保護者対象

・お子さんは、よりよい学校生活を送るために考え、行動している。

・勢和小学校の指導で、子ども達の生活意識や規律、マナーが高まっていると思う。(再掲))

##### (2) 児童対象

・友だちは、やさしいな・がんばっているなと思う。

・係(かかり)のしごとや委員会(いいんかい)のしごとはたのしい。

・礼儀(れいぎ)正しく生活(せいかつ)している。

児童対象アンケートでは下記の3つの質問全ての肯定的回答率が90%以上だった。体育委員会のミニミニ運動会、生活委員会のいいね運動など、創意工夫された自治活動が展開された。保護者対象アンケート「お子さんは、よりよい学校生活を送るために考え、行動している。」では、89.7%の肯定的回答を得た。

## 25 (3) 一人ひとりの特性を生かした教育の推進

### ① 一人ひとりに応じた指導・支援の充実

○子どもの実態把握を基に「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成する。

○さゆり部会・ケース会議等を通じて、全職員の共通理解のもと個々の子どもの適切な支援にあたる。

○外部機関(多気町子育て総合支援室、子ども課、民間療育等)との連携を図る。

#### 学校満足度調査 質問内容

##### (1) 保護者対象

・学校は、児童一人ひとりの特性や困り感に応じた丁寧な取り組みを進めている。

・子育てで困った時には、担任やスクールカウンセラーに相談したいと思う。

上記保護者対象アンケートでは、77%前後であったが、毎月、保護者を交えたケース会議を開催し、不登校、特支教育などについて中長期的な視点で各立場での取組を明確にし検証してきた。子ども課などとの関係機関との連携も活発に行ってきた。

#### (4) 安全で安心して学べる教育の場づくり

○未然防止、早期発見、組織的な対応に取り組み、いじめ問題に対応する。

○いじめアンケート後に個人面談期間（年2回）を継続し、教育相談体制を確立する。

○様々な危機に関する職員の意識を高めるとともに子どもの危険予知能力、安全対応能力の向上を図る。

○子どもの視点を加えた学校環境の整備や点検に努め、事故のない安全な学校づくりを進める。

○交通安全指導など子どもたちの安全意識を高めると共に、交通安全ボランティアなど地域人材を活用し登下校の安全を確保する。

#### 学校満足度調査 質問内容

##### (1) 保護者対象

・勢和小学校は、子どもにとっても保護者にとっても安心・安全な学校になっている。

・ほっとするクラスづくりやいじめを許さない子どもの育成など、いじめの未然防止や早期解決に向けた取り組みが進められている。

##### (2) 児童対象

・人にいやなことをいったり、したりしないように気をつけている。

・人からいやなことをいったり、されたりしたことがある。

・学校はたのしい。

上記の保護者対象アンケートではいずれも85～90%の肯定的回答を得た。児童対象アンケートでは、「学校は楽しい」91.4%、「人からいやなことを言われたり、されたりしたことがある。」33.2% で言動に課題が見られた。

注意の仕方を明確にするなど児童の気になる言動について改善を進めてきたが、日常の小さなトラブルは解消されていない。保護者と連携した対応を引き続き進める。

#### ② 学び合い、協力し合う体制づくり

○研修会が効果的・効率的に機能するように、目指すゴールを明確にし、手立てを共有していく。また、短期PDCAサイクルを回し、手立てを改善していく。

○小中の連携体制がより進みやすいよう組織改編を行う

○小中学校共通の課題を見だし、9年間の指導の一貫性を重視した取組を進める。（授業参観、国語学習、生活部会、学校保健委員会、ファミリーウイークの実施）

○保育参観、授業参観、引き継ぎ会等を実施して、園児の特性や成長を確認し合う機会を持ち、保育から教育への円滑な移行ができるよう努める。

○研究指定校の授業公開を授業改善のきっかけとする。

○会議の効率化を図り、月一回程度のNO会議デーを設定する。

○会議時間は60分以内（全会議の80%）を目指す。

○時間外勤務時間では、月30時間以内、年間360時間以内を徹底するとともに、登校指導など早出勤

務となるものを地域に依頼するなどして業務の精選を進める。

○毎週、各自定時退校日を設定し、見通しを持って業務を行う。また、職員の年休取得は昨年度比2日以上の増加となるよう努める。

5

学校満足度調査 質問内容

※教職員対象のため、保護者および児童対象アンケートには該当項目なし

10

「子どもの心に火を付ける授業づくり」を基盤に研修を進めてきた。ルーブリック評価を活用しゴールとなる児童の姿を明確に取り組めた。1小1中の強みを生かし、道徳科授業の研修、自己肯定感の涵養研修など研修を進めた。

教職員の総勤務時間縮減について、12月末の時点で月平均30時間を上回っている。年度内に設定した月曜日の「ゆとりの日」は、達成率が12月時点で46%であった。職員会や研修会では60分を超えることがほとんどだが、ケース会議、校内委員会、部会などは60分以内に終えることができた。

15

#### (5) 地域との協働と信頼される学校づくり

##### ① 地域とともにある学校づくり

○危機管理及びコンプライアンスに対する職員意識を高める。

20

○中学校区CSの学校運営協議会を核として、地域との密接な関係づくりを進め、社会に開かれた教育課程を実践する。また、勢和CS基本理念に基づいて、SOCS活動を中心に地域資源を生かした活動に取り組む。

○学校だよりや学校ホームページを活用し、積極的に情報を公開する。

○学校評価や学校運営協議会制度を活用し、開かれた学校づくりを進める。

25

学校満足度調査 質問内容

(1) 保護者対象

・学校行事は、保護者が参加しやすいように工夫されていると思う。

・勢和小学校の学校行事は、子ども達が意欲的に活動するものになっている。

30

・たよりやホームページなどで学校の様子がよく分かる。

35

上記の保護者対象アンケート結果ではいずれも85%以上の肯定的回答を得た。地域の方の協力を得てSOCS活動をはじめ、クラブ活動や家庭科実習などの教育活動を進めることができた。

児童のケガ、トラブルなどの対応ではその日のうちに該当保護者に連絡を入れ、情報共有および再発防止を進められた。

その他、全体を通じて

ここ3年間「自分のことが好きだ」の肯定的回答率は80%少し切っている。また学年が上がるにつれ肯定的回答率は下がっている。引き続き、授業改善を進め課題を協働的に解決していくこと、自治活動で学  
5 校生活をよりよくしていくこと、リレーションを高めるため児童間のコミュニケーション能力としてのソーシャルスキルの定着を進めていく。

また小さな違和感、課題があるときには先送りせず、個人で抱え込まず、優先的にそして組織的に取り組み、児童の困り感を減らしていく。

今回の学校評価から、家庭学習の時間、家庭読書の時間の少なさが分かった。またファミリーウィーク  
10 の結果からは、120分以上スマホなどに接している児童ほど、メディアから離れにくいことが分かった。メディアとの適切な関わりができ、かつ学年相当の家庭学習時間になるよう、家庭との連携を図るとともに、宿題の量を見直し、家庭読書を宿題時間に位置づけ、本に接する機会を確保していく。

SOCS活動、交通安全活動などの地域学校協働活動が、緩やかな連携の中においても、より組織的な  
15 取組に発展していくよう組織改編を進めるとともに、それぞれの活動の意義・ねらいについて学校と関係者が共有し、活動のあり方を見直していく必要がある。また、旧多気町で進められている統合小学校における保護者組織の再編について、本校でも並行して進める必要があり、地域学校協働活動として位置づける方向で検討中である。他校との情報共有を進めていく。

SSS配当800時間であるが、総勤務時間縮減にはつながっていない。時間があればよりよい授業を  
20 目指すことから教材研究などに時間を費やしている。体調不良、家庭生活へのシワ寄せにつながらないよう、定時退校日の徹底、会議時間の短縮を引き続き行っていく。

退勤時刻後の対応を減らせるよう、面談・相談の終了時刻を前もって保護者に伝えるなどして、教職員の私生活に影響が出ないようにしていく。